

修士論文 (要旨)

2012年7月

日本語教育の背景にある同化の思想

- インドネシア人看護師・介護福祉士に強制される日本語のあり方 -

指導 牧田東一 教授

国際学研究科

国際協力専攻

209J1951

ハプサリ バユワルダニ

目次

序章 問題意識	1
第1章 植民地と国語教育	2
1.1 日本の国語教育	2
1.2 同化のための国語	4
1.3 アジアの普通語としての日本語	6
第2章 インドネシアにおける日本語教育	7
2.1 オランダ植民地時代のインドネシア	8
2.2 オランダ植民地時代のインドネシア語運動	10
2.3 日本占領下のインドネシア	11
2.4 日本占領下のインドネシアの教育	13
第3章 EPA における日本語教育問題	15
3.1 EPA によるインドネシア人看護師・介護福祉士問題	16
3.2 EPA における日本語教育	18
3.3 EPA で来日したインドネシア人のインタビュー結果: 「同化」は可能か?	22
3.4 変わらない同化的な日本語教育	29
終章 「同化」ではない外国人のための日本語の未来	30

参考文献

付録

要旨

2007年8月20日に署名、国会の承認を経て、2008年7月1日に発行された「経済上の連携に関する日本国とインドネシア共和国との間の協定(英語訳:Agreement Between Japan and The Republic of Indonesia for an Economic Partnership)」(以下EPA(Economic Partnership Agreementという)に基づき、2008年は208名、2009年は361名、2010年は116名のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者が来日し、日本語研修を終了後、全国の病院・介護施設で就労を開始した。日本の病院や介護施設においては、政府間協定に基づいて外国人看護・介護職を雇用するのは初めである。

EPAでは、一定の要件を満たすインドネシア人が「看護師候補者」あるいは「介護福祉士候補者」として来日し、一定の要件を満たす病院・施設において就労・研修し、(国家資格の取得後には看護師・介護福祉士として継続して就労することが認められている。来日したインドネシア人看護師・介護福祉士は「自分のキャリアをのびたい」や「家族を経済的に支援したい」などの動機を持って日本で就労できることを希望する。滞在期間以内(看護師候補者は上限3年、介護福祉士候補者は上限4年)に看護師国家試験・介護福祉士国家試験に合格しなければならない。国家試験に合格するまでに、彼らは看護助手・介護助手として働くことになった。

在日インドネシア人看護師・介護福祉士にとって、日本語という難関がある。母国語のインドネシアと全く異なった語順、単語、敬語の存在、そして表記式は漢字を使うなど、日常生活でも難しい日本語にも関わらず、数年間だけで、日本人でも必ずしも合格できるとは限らない国家試験という高いハードルを越えなければならない。

なぜ日本政府はここまで日本語習得にこだわるのかという疑問を答えるためには、日本の歴史を学ぶなかから、それは「同化」のためだというヒントが出てきた。この「同化のための日本語」という問題意識こそが、この論文を通じて明らかにしたい点である。

第1章では日本の国語教育の始まりとその日本語教育が日本の植民地であるアジア地域に広まる経過を述べている。そこから見られたのは、日本は占領した国々の言語や文化や習慣などを無視して、日本の領土になるのは、「日本」になると同じ意味でとらえて、日本との同化をさせようとしていた。アジア地域のリーダーとして勤めたい日本は、とにかく自分の文化を広めて、アジア地域を統一させて、日本の言いなりに従うように働きかけた。

次の第2章では、筆者は日本の植民地の中でも、インドネシアにおける日本語教育について述べる。ここで明らかになったのは、第1章で述べた日本の植民地でとられた「同化」の政策が、新しい占領地であるインドネシアでもとられたのである。日本語教育と日本精神とは不可分のものであり、日本語を通じて日本精神を体得し、日本の戦争に参加するよき兵士となること、あるいは日本の戦争の背後で食料などを補給するよき農民、あるいは兵士や軍属を支えるよき日本婦人となることが、夢見られていたのである。別の言い方をすれば、日本語教育と日本への「同化」すなわち、心から、精神から日本人になることは、不可分のものであった。

第3章では、第1章と第2章を通じて明らかになった日本語教育の背景にある同化の思想の存在が現在にも残っていることを論じている。まずは、インドネシア人にとって日本語がいかに難しい言語

であるか、そして日本政府が EPA 受け入れプログラムの参加者に求めた日本語能力の高さと来日インドネシア人看護師・介護福祉士の日本語能力に大きなずれがあることを明らかにする。次は筆者が行った、在日インドネシア人看護師・介護福祉士を対象にしたインタビューの結果を述べる。インタビューから、彼らの来日した動機や長期的に日本で働く意思があるかどうかのことや日本語の勉強の状況などが分かった。

EPA 問題の核心は、外国人労働者に日本人と同等、その専門分野においては通常の日本人以上の日本語能力を求めるといふ日本政府、日本社会の姿勢であると筆者は考える。そして、それはこれまで述べてきた歴史的な日本語教育の問題と密接に関連していると考えるのである。

終章では第 1 章から第 3 章で明らかになったことを踏まえて、「同化」ではない外国人のための日本語の未来について、筆者の考察や意見述べる。

参考文献

[邦文]

- イ・ヨンスク (2009) 『「ことば」という幻影：近代日本の言語イデオロギー』 明石書店
- 出井康博 (2009) 『長寿大国の虚構：外国人介護士の現場を追う』 新潮社
- ゲルナ、アーネスト (2000) 『民族とナショナリズム』 岩波書店
- 奥島美夏 (2009) 『日本のインドネシア人社会 国際移動と共生の課題』 明石書店
- 奥島美夏 (2010) 「インドネシア人看護師・介護福祉士候補の学習実態－背景と課題－」 『神田外語大学社会研究所紀要』 第 1 号、295-342 頁
- 小熊英二 (2000) 「日本の言語帝国主義： アイヌ、琉球から台湾まで」 『言語帝国主義とは何か』 藤原書店、55～64 ページ
- 新村出 (2008) 『広辞苑』 岩波書店
- 牲川波都季 (2002) 「同化主義としての「学習者中心」」 『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』 第 15 号、163～177 頁
- 石 剛 (2005) 『日本の植民地言語政策研究』 明石書店
- 足立清史・大野俊・平野裕子・小川玲子・クレアシタ (2010) 「来日インドネシア人、フィリピン人介護福祉士候補者の実像」 『九州大学アジア総合政策センター紀要』 第 5 号、163～174 頁
- 陳 培豊 (2001) 『「同化」の同床異夢』 三元社
- 塚田典子 (2010) 『介護現場の外国人労働者 日本のケア現場はどう変わるのか』 明石書店
- 百瀬有子 (2003) 『知っておきたい戦争の歴史 日本占領下インドネシアの教育』 つくばね舎
- 平野裕子・小川玲子・大野俊 (2010) 「2 国間経済連携協定に基づいて来日するインドネシア人及びフィリピン人看護師候補者に対する比較調査：社会経済的属性と来日動機に関する配布票調査結果を中心に」 『九州大学アジア総合政策センター紀要』 第 5 号：153～162
- 堀場裕紀江・深谷計子 (2011) 「看護師国家試験における外国人候補者のテストパフォーマンス：テスト提示条件とテスト問題の影響を日本人看護師・日本人大学生との比較から探る」 『言語科学研究：神田外語大学大学院紀要』 第 17 号、67-85 頁
- 安田敏朗 (1997) 『植民地の中の「国語学」』 三元社
- 安田敏朗 (2000) 『近代日本言語史再考 帝国化する「日本語」と「言語問題」』 三元社
- 安田敏朗 (2006) 『「国語」の近代史 帝国日本と国語学者たち』 中公新書

[邦文以外]

- Alam, Bachtiar and Wulansari, Sri Ayu (2010) 'Creative Friction: Some Preliminary Considerations on the Socio-Cultural Issues Encountered by Indonesian Nurses in Japan' *Bulletin of Kyushu University Asia Center* Vol. 5 : 183-192
- Departemen Kesehatan RI (2007) *Profil Pengembangan dan Pemberdayaan Sumberdaya Manusia Tahun 2006* Jakarta: Badan Pengembangan dan Pemberdayaan Sumberdaya Manusia

- Kesehatan. (保健省 (2007) 『2006年度人間開発とエンパワーメントのプロフィール』 健康的人材開発とエンパワーメント局)
- Frellesvig, Bjarke (2010) *A History of the Japanese Language* Cambridge: Cambridge University Press
- Iriye, Akira (1999) *Pearl Harbor and the Coming of the Pacific War : A Brief History with Documents and Essays* Boston and New York: Bedford/St. Martin' s
- Mutiawanthi (2010) *Faktor Penting Yang Mempengaruhi Serta Motivasi Perawat Careworker Indonesia Bekerja di Jepang dalam Kerangka Indonesia Japan Economic Partnership Agreement (IJ-EPA)* (ムティアワンティ (2010) 「インドネシア人看護師・介護福祉士のEPAに基づき日本で働くことにおける動機と重要な要因」)
- Ricklefs, Merle Calvin (1981) *A History of Modern Indonesia Since C. 1200* Stanford: Stanford University Press
- Sneddon, James Neil (2003) *The Indonesian Language: Its history and role in modern society* Sydney: UNSW Press
- Supriatna, Nana (2008) *Sejarah* Jakarta: Grafindo Media Pratama (スプリアトナ ナナ (2008) 『歴史』 フラフィンド メディア プラタマ)
- Tugiyono (2005) *Pengetahuan Sosial Sejarah 2* Jakarta: Grasindo (テュギヨノ (2005) 『歴史・社会学2』 グラシンド)
- Vickers, Adrian (2005) *A History of Modern Indonesia* Cambridge: Cambridge University Press
- Vlekke, Bernard H.M (2008) *Nusantara: Sejarah Indonesia* Jakarta: Gramedia (Vlekke, Bernard H.M (2008) 『祖国：インドネシアの歴史』 グラメディア)

[Web サイト]

- Asian News Magazine. (February 2009). *Wanted Caregivers: Japan`s Rapidly Ageing Population Has Created a Boom in Nursing-Care Sector But There Are A Few Takers.* (〈<http://www.asianewsnet.net/epaper/pdf/AsiaNews%20Feb13-19%20PDF.pdf>〉)
- Fuyuno, Ichiko. (2007) British Society for Research on Ageing: *Ageing Society in Japan - Part I.* (〈<http://www.bsra.org.uk/files/ageing%20society%20report%20part%20I.pdf>〉)
- 林博史 (1999) 「「大東亜共栄圏」の実態：日本軍占領下のアジア」『沖縄戦研究 II』 沖縄県教育委員会 (〈<http://www32.ocn.ne.jp/~modernh/paper41.htm>〉)
- Japan Aging Research Center (JARC). (2009). *Aging in Japan: Current Condition and Challenges, Summary of White Paper on an Aging Society 2009.* (〈<http://www.jarc.net/int/?p=271>〉)
- Japan Nursing Association. (March 2008) *Nurses from Philippines, Indonesia Set to Practice in Japan* (〈<http://www.nurse.or.jp/jna/english/news/pdf/40.pdf>〉)

神戸国際医療交流財団（2011）「EPA 外国人看護師・介護福祉士調査報告書」
（<http://www.kobeima.org/pdf/EPA.pdf>）

厚生労働省.『福祉・介護人材確保対策について』（<http://www.mhlw.go.jp/seisaku/09.html>）
2012年5月参照）

Virag、Viktor. (November 2008). *Foreign Nationals Entering Japan`s Long Term Care Labour Market: Tendencies and Possibilities*. “Welfare Reform in East Asia: Meeting the Needs of Social Change、Economic Competitiveness and Social Justice”

（http://www.welfareasia.org/5thconference/papers/Virag%20V_foreign%20nationals%20in%20long%20term%20care.pdf）

付録

インタビュー質問リスト:

1. Apa motivasi anda untuk datang ke Jepang?
(来日した動機はなんですか。)
2. Seandainya anda lulus ujian negara, berapa lama anda bermaksud tinggal di Jepang?
(国家試験に合格できれば、どれぐらい日本で働くつもりですか。)
3. Selama tinggal di Jepang, hal apa yang anda rasakan positif dari negara ini?
(日本で生活して、いいと思うことは何ですか。)
4. Selama tinggal di Jepang, apa saja kesulitan yang anda alami?
(日本で生活して、大変だと思うことは何ですか。)
5. Berapa lama rata-rata anda belajar setiap hari?
(毎日平均どれくらい勉強していますか。)
6. Selain waktu yang sudah ditetapkan, kapan dan bagaimana cara anda belajar?
(そのほかの勉強時間は儲けますか?どんな方法を使って勉強していますか)
7. Cukupkah waktu belajar yang anda punya sekarang ini? Apa alasannya?
(現在の勉強時間は足りていますか?理由を教えてください)